

## 「白老町の伊達藩元陣屋とウポポイ、恵庭市の郷土資料館を訪ねる」

昨年度のクラーク会バスツアーはコロナ禍のために開催を取りやめました。今年も開催を危ぶんでいましたが、総会議案書に盛り込まれた計画に従って準備を進め、10月29日に開催しました。今年の訪問先は、中山久蔵翁が若かりし頃伊達藩の片倉家に仕え、北海道の警備当たっていた主人のお供で往来した白老の伊達藩の元陣屋と、昨年度完成したウポポイ、そして、その帰り道にある恵庭市の郷土博物館を選びました。だが、9月までは今年も中止にせざるを得ないのではないかという思いが頭をよぎり、準備にはあまり力が入りませんでした。



### ウポポイ

10月1日の北広島市の広報で40名の参加者を募集し、最終的には36名が参加しました。バスツアーはハプニングもなく予定通りに進行しました。ウポポイにつくと、先に入手しておいた入館整理券を示して入場券を購入して国立アイヌ民族博物館に入ります。ウポポイは広く、展示物への関心が各人で異なると考えられますので、集合場所と時間だけを決めて、見学は自由行動としました。2階建ての博物館は一階がエントランス、シアター（石器時代からの北海道とアイヌ民族の歴史の上映）、アイヌ民族のライブラリーからなり、二階は基本展示室と特別展示室（現在は、国立民族学博物館巡回展「ビーズーアイヌモシリから世界へ」）から構成されています。



私には特別展示室に入る余裕はなく、見学したのは以下のとおりです。基本展示室はプラザ展示（芸術性の高い作品）を中心に、下記の各展示コーナーとの間を行ったり来たりして理解を深めることを意図して配置しているように思われます。各展示コーナーは、アイヌ民族の言葉（アイヌ語や物語、地名など）、精神世界の紹介、「暮らしと文化」、「仕事（狩猟や漁労、採取、農耕などの道具や仕組み、明治以降の工芸品などの新しい仕事）」、「交流（アイヌ民族と和人や北方・中国大陸の民族との交流の歴史）」の五つのコーナーからなっています。

この基本展示室を見学している最中に、私の周りにはメモ帳を手にした修学旅行の小学生が多くなってきました（この日は10数校の修学旅行生を受け入れているとのことでした）。残りは後で見ることにして、アイヌの伝統的な建物からなるアイヌコタンに移動しました。

コタンのポロチセ（大きな建物）では、囲炉裏を囲んで軽快な語り口の司会で民族楽器のムックリとトンコリの演奏に触れました。ポンチセ（小さな建物）では同じくアイヌ文化の口承文芸の物語を聞くことができました。早めの食事をとって再度、博物館に戻って見残したのを見ると集合時間近くになっていたので、集合場所に行き、集合写真を撮って、伊達藩の元陣屋に移動しました。

### 伊達藩の白老元陣屋

伊達藩の元陣屋の資料館につくと、二人のボランティアの説明員の案内で二班に分かれて見学しました。最初に伊達藩の元陣屋が作られた時代背景などの概要を説明したビデオから見学が始まりました。



元陣屋はペリー来航による下田・函館の開港、欧米各国やロシアとの交易開始にともなう蝦夷地の防衛拠点として1856（安政3）年に建設されました。その建設にあたって仙台藩は苦小牧のユウフツに元陣屋の建設を命じられたが、伊達藩の調査ではユウフツは箱館から遠く、湿地で、地形から見ても防衛に